



京都を温め、未来をつくる

京都府知事 山田 啓二

最近の冷え込んでいる京都府の状況を「温め」るため、全国有数の投資的経費の伸びを示すなど、対前年度比一〇三・一％の思い切った予算を編成しました。府の財政状況も一層厳しさを増し、府税収入が五百三十億円の減収となる見込みですが、そういう時だからこそ、雇用・経済、生活の面において回復に導く政策を優先し、将来を見据えて京都の未来を温めるという意味で「京都温め予算」と位置付けました。京都ならではの特徴を生かした、「10の京都政策」など、「雇用・経済」「生活」「未来」の分野で京都づくりに全力で取り組みます。

京都を温める

一 「雇用・経済」を温める

「京都を支える5万人雇用・ひとづくり事業」として、三年間で五万人の雇用創出の実現に取り組みます。なかでも、ひとづくりに焦点を当て、福祉技術習得支援の拡充を始め、二年前に開設した全国初となる総合就業支援拠点「京都ジョブパーク」において、緊急対策として「地域ジョブパーク」事業を実施するなど、更にきめ細やかな就業支援やマッチングを充実させます。また、環境対策として、電気自動車等の率先導入、住宅用太陽光発電設備を設置する場合の助成措置の拡充などを行います。

二 「生活」を温める

障害のある方への就労支援として、京都ジョブパークの「はあとふるジョブカフェ」に精神保健福祉士を毎年配置し、精神障害者の方向けの相談体制を充実させます。また、お年寄りのための病床緊急確保対策では全国初の試みとなる、医療療養病床を維持する医療機関への助成により病床総数確保につなげます。さらに、企業倒産、リストラ等で家計が急変し、修学が困難になった高校生への臨時・緊急の修学支援金の給付や、保育料を減免する私立幼稚園への補助も新たに行います。

三 「未来」を温める

京都の文化と環境価値を高める取組みとして、「北山文化環境ゾーン」の整備を実施します。府立大学と連携した新総合資料館の整備計画策定などを行います。教育面では、中学一年生を対象に、夏休みなどを活用して基礎基本学習を徹底するための「ふりかえりスタディ（通称ふりスタ）」を実施し、学習のつまづきの解決につなげていきたいと考えています。

温めた京都を動かす「絆」

効果的に京都を温めるためには、これまでの府民の「絆」を更に広げ、互いに支え合う取組みを進めることが重要です。そのために「絆」政策を強化することとし

ました。今年度の「絆」政策の目玉として、新しい公共事業手法となる「府民公募型安心・安全整備事業」を掲げています。府民の皆さんから、身近な安心・安全を確保するために必要な改善箇所を提案していただき、地域や自治体と協議の上実施する事業として、六十億円の予算を投入します。

こうした「絆」政策を支えるため、京都府自身も「絆」に加わり積極的に府民の皆さんの要望に応えていかなければなりません。そのために、消費生活相談の困難事案を迅速に処理するための「消費者あんしんチーム」や、中小企業の経営面や技術面の課題に対応する「中小企業サポートチーム」「技術力向上サポートチーム」など「6つの協働チームの設置」を行うこととしています。

行政経営改革の取組

この経済不況の時期に、積極的な予算を組むことができたのも、これまでから公債費や人件費を長期的視野でコントロールするとともに、府税の徴収率引き上げに努力するなど、財政健全化に努めてきたからだと言えます。ただ、京都を温めるためには、かなりの「燃料（税金）」を使うことにもなることから、未来に向かって新しい行政経営改革もしつかり実施します。人件費の削減を始め、選択と集中による施策の見直し、未利用地の売却や広告料収入等の歳入確保対策などで、総額約百四十五億円の行政経営改革を実行します。